資　料　3

第５期戦略の取組体系（案）について

重点プロジェクトをはじめとする施策の前提として、委員意見を踏まえて、第５期戦略の取組体系を整理したもの。

基本目標　**訪れる人の感動を、まちの誇りと活力に変える“稼ぐ観光”の実現**

～世界に選ばれ、未来につながる観光都市　KAGOSHIMA～

重点プロジェクト（案）

- **Ⅰ　インバウンド誘客力強化プロジェクト**
- **Ⅱ　桜島・歴史等の魅力強化プロジェクト**
- **Ⅲ　MICE等の交流機会創出強化プロジェクト**

委員意見から整理した、本市観光の問題

①　「観光地の魅力づくり」の問題

- 桜島・歴史・文化などの資源を活かしきれていない
- 体験型・ストーリー型へのニーズに応えるコンテンツが不足
- 食・特産品等の魅力を観光消費に十分に結びつけられていない
- ナイトタイムエコノミーが脆弱で、まちなかの回遊性も低い

②　「誘客推進」の問題

- ＭＩＣＥ等の誘致の競争力が十分でない
- 情報発信プロモーションが不足し、ターゲットに届いていない
- 県都としての強みや広域連携を誘客に活かせていない
- クルーズ客の来訪を消費拡大に活かしきれていない
- ターゲット市場の多角化等、インバウンド誘客が不十分

③　「受入環境整備」の問題

- 多言語表記をはじめとする案内サインが不足
- 交通アクセス・二次交通が分かりにくい
- キャッシュレスや食の多様性など店舗側の対応が不十分
- クルーズ寄港時に受入体制が追いつかない
- 市街地やコンテンツに関するガイド人材が不足

④　「観光事業者の状況」の問題

- 観光を担う人材の確保・育成が追いつかない
- 関係者間で課題や好事例を共有する場がない

戦略の柱	基本方針	施　策	（参考）施策に関する委員意見
1 オンリーワンの魅力創出	(1)「観光地・鹿児島」の魅力づくり・磨き上げ	◆自然、歴史・文化、食、温泉などの魅力を活用した体験型観光の推進 Ⅰ ◆観光地の高付加価値化の促進 ◆観光資源を活用したエリア価値の向上 Ⅱ	・工芸制作体験、焼酎・食文化体験、生産現場の見学など、地域事業者と連携した体験型コンテンツの充実 ・食のブランド力を高め、名物料理の再定義に取り組む。
	(2) エンタメ・アミューズメント機能の充実	◆誘客力のある観光イベントの創出・充実 Ⅲ ◆観光施設等の魅力向上 ◆魅力あるスポーツコンテンツの充実 Ⅲ	・ナイトライフ観光の強化 ・ナイトタイムエコノミーを活性化し、夕食後の需要を喚起 ・いづろ通り～ウォーターフロント周辺の魅力創出を図るべき
	(3) 鹿児島ならではの多様なツーリズムの展開	◆ 世界文化遺産の活用や桜島・錦江湾ジオパークの取組の推進 Ⅱ ◆グリーン・ツーリズム等の推進	・仙巌園駅(世界遺産エリア、桜島、錦江湾など)をドラマや映画の舞台として活用 ・西郷プロジェクトを一過性にせず、レガシーとして次につなげる
2 戦略的な誘客推進	(1) 戦略的なプロモーションの展開	◆国内外からの誘客につながる効果的なプロモーションの展開 Ⅰ Ⅱ ◆効果的な広域連携の推進 Ⅰ ◆全市的な取組を促すテーマの設定・統一的プロモーションの推進 Ⅱ	・マーケティング戦略と整合性をとった具体的な施策の実施 ・県をはじめとする地方自治体との連携強化 ・需要層として女性、特に若者の誘客に力を入れる ・県内（霧島、指宿、種子屋久、北薩等）との連携強化 ・食材と焼酎文化を核にプロモーションし、宿泊につなげる
	(2) MICEなど交流機会の拡大による誘客推進	◆多様なＭＩＣＥの誘致・受入の促進 Ⅲ ◆スポーツコンテンツを生かした誘客の推進 Ⅲ ◆フィルムコミッションの推進 ◆ユニークベニューの推進	・経済波及効果の大きいＭＩＣＥ誘致に一層取り組むべき ・プロスポーツキャンプ、大会等の開催（サッカー、ラグビーなど）
	(3) 観光クルーズ船の誘致・受入	◆関係機関と連携した受入体制の充実 ◆寄港地観光の充実	・体験型コンテンツの充実による滞在時間・消費額の増加
3 観光客の満足度を高める受入環境づくり	(1) おもてなし環境の整備	◆高いスキルの観光ガイドの育成 Ⅱ ◆快適な滞在環境の整備 ◆わかりやすい交通案内の充実 Ⅰ	・旅行者の旅行中の価値を高めるための案内ガイドの育成 ・ハード整備や民間事業者等の取組に対する財政的な支援 ・鹿児島の魅力を自分の言葉で伝えられる人材の育成が必要 ・夜間・週末のバス等の運行が充実すれば、観光客も安心できる
	(2) ユニバーサルな受入・案内機能の充実	◆観光案内機能の強化 Ⅱ ◆多言語化など外国人対応の充実 Ⅰ ◆ユニバーサルツーリズム等の推進	・外国語サインの充実 ・多言語対応やキャッシュレス化等、受入体制の重点整備
	(3) 安心感を高める危機管理体制の強化	◆危機事象における観光客への対応強化 ◆風評被害への対応強化	
4 “稼ぐ観光”の基盤強化	(1) 推進体制の強化	◆官民連携でのPDCAサイクル推進 ◆DMOの機能強化 ◆観光関連産業の“稼ぐ力”の強化	・事業者同士が課題や対応策を共有する場が必要 ・観光消費額等の数値を共有し、ＰＤＣＡを繰り返すことが必要 ・推進体制・役割分担の明確化に向け、司令塔機能の整備が必要
	(2) マーケティングによるニーズ把握・分析	◆地域マーケティングによるニーズ把握・分析 ◆観光消費額調査、国・県・民間の調査の活用	・東アジアから欧米へ、インバウンドのターゲットのシフト
	(3) 地域経済循環の促進	◆地消地産の促進	
	(4) 観光関連産業における人材の育成・確保の促進	◆外国人材をはじめ多様な人材の確保に向けた支援 ◆教育機関等の連携による、将来の観光産業の担い手のきっかけづくり・育成	・観光を担う人材の確保の強化 ・人手不足解消のための人材確保支援や、省人化DX化を推進するための補助金などの支援策の拡充等
	(5) 観光に対する市民の理解・共感の拡大	◆観光による経済効果や観光施策などの情報発信による理解促進 ◆観光客(インバウンド)に対するマナー啓発 ◆観光に関わる市民参画の機会創出・シビックプライドの醸成	・美術館等の無料開放で市の魅力に触れる機会を作る ・成果だけでなく過程も伝え、広く意見を集める仕組み

※施策の横のローマ数字は、関連する重点プロジェクトに対応。　※「打ち手に関する委員意見」は、７月の意見照会において、主にＱ３・Ｑ４の回答として提出されたものをもとに整理